

各会派代表質問

総務市民委員会

(補正予算2件、条例1件、請願1件)

●SDGsプロジェクトエッグ応援補助金の申請件数は

問 SDGs推進事業費を380万円減額することですが、SDGsプロジェクトエッグ応援補助金の申請件数は当初の見込みをどの程度下回ったのですか。

答 応援補助金の対象となる従来型のF U J I 3 Sプロジェクトエッグについては年間で5件の申請を見込んでいましたが、今年度から開始したクラウドファンディング型への申請が多かったことなどから、従来型への申請は1件にとどまりました。

要望 この事業に関するウェブサイトの構成が分かりにくい状態なので、申請件数を増加させるためにも、利用しやすくなるよう工夫してください。

福祉保健委員会

(補正予算5件)

●子供のプライバシーを守るためのパーティション等の設置について

問 性被害防止対策整備等事業費補助金を新規に15万円追加し、保育所等における性被害を防止するため、子供のプライバシーを守るパーティション等を設置することですが、設置を希

望する幼稚園や保育園等はどのくらいありますか。

答 この事業は、今年度から開始された国の補助事業であり、簡易的な扉や更衣室の設置、また室内の様子を記録するカメラの設置等も補助対象となります。補助金の利用について各園に打診したところ、今年度は2園から申請があり、来年度も6園を予定しているため、今後は設置する園が増えていくものと想定しています。

産業教育委員会

(補正予算2件、陳情1件)

●今回のキャッシュレス決済ポイント還元事業が見込みを下回った要因と今後の進め方は

問 地元消費促進事業1億4206万円余の減額は、昨年11月に実施したキャッシュレス決済ポイント還元事業の執行額が見込みを下回ったためとのことですが、その要因をどのように捉えていますか。また、本事業については今後どのように進めていくつもりですか。

答 ポイント還元額は前回の約3億1000万円に対し、今回は約3億6000万円と増加しましたが、見込みを下回った要因としては、前回と比べて対象となる決済事業者や上限額を変更したことなどから非常に予測が困難だったこと、事業を途中で打ち切ることができないため、余裕を持った予算としたことによるものです。また、商品券等のほうが利用しやすい方もいるため、今後、同様の事業を実施する場合には、目的や実施方法等を多角的に検討する必要がありますが、市民や事業者の利便性が向上するキャッシュレス化を推進していきたいと考えています。

建設消防委員会

(補正予算6件)

●合併浄化槽の普及について

問 浄化槽設置費補助金の申請件数が当初の見込みより少なかったことから、浄化槽設置助成費を5730万円余減額することですが、合併浄化槽の普及に向けて現状をどのように捉えていますか。

答 コロナ禍で浄化槽維持管理指導員の戸別訪問が制限された昨年度に比べ、今年度の申請件数は現時点で10件程度増加しているものの、10人槽の転換については高い目標を掲げていたことから、見込みを大幅に下回りました。また、浄化槽区域における合併浄化槽の普及率は令和4年度末時点で30.9%にとどまっておりますので、引き続き戸別訪問などによる丁寧な制度案内に取り組み、さらなる普及に努めてまいります。

会派の紹介

会派の構成は次のとおりです。
○は質問者

リスペクトふじ	心政富士	凜の会・公明党	民主ふじ	草の根ふじ	真政会
○一条 義浩 小池 智明 ○鈴木 幸司 植松 光徳 吉川 隆之 新家 大輔	○下田 良秀 川窪 吉男 佐野 智昭 藤田 哲哉 荻田 丈仁	○望月 昇 高橋 正典 井出 晴美 萩野 基行	○山下いづみ 長谷川祐司 杉山 諭 佐藤 菊乃	○笠井 浩 関 明美 小池 義治 福永 意人	○稲葉 寿利 太田 康彦 遠藤 盛正 石川 浩司

※会派とは、議会内において基本的な政策が、一致する議員3人以上により、結成された同志的集合体のことです。

我が国が直面する最大の危機とする少子化に挑む意気込みと、少子化の原因は何と捉えているか何うリスペクトふじ

議員 少子化に挑むため、妊娠・出産・子育てへの不安を取り除き、安心感をはぐくむための各種施策を、はぐくむF U J I こども未来パッケージとして展開していくとのことだが、展開に当たっての意気込みと少子化の根本原因は何と捉えているか何う。

市長 少子化の主な要因としては、婚姻数の減少や未婚化・晩婚化の進行、有配偶出生率の低迷などが挙げられ、その背景には、若い世代の雇用環境や経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、子育てや教育にかかる費用負担の重さなど、結婚

や出産、子育ての希望の実現を阻む様々な社会的な要因が複雑に絡み合っていることが考えられる。

少子化の克服に向けては、単に結婚や出産を促すものではなく、子育ての希望の実現を阻む様々な社会的な要因を打破する施策を本市の実情に合わせて総合的かつ網羅的に展開することが重要と考えている。

少子化の要因には、様々な社会的な背景があることから、官民が一丸となって社会全体で取り組むことが重要となる。新年度は、私がチーム富士市の先頭に立ってこの難局に挑み、結婚、妊娠・出産、子育ての希望を実現でき、全ての人が生き生きと安心して子供を産み育てることができるまちの実現につなげていきたい。

一次救急での輪番体制の継続見込みと、630事案の抜本的な解決はリスペクトふじ

議員 救急医療では、平日昼間に救急患者の受入れ可能な医療機関の輪番体制を構築し、事業効果を検証することだが、輪番体制は、支障なく継続する見込みか。また、630事案は複合的な要因が絡む深刻な問題であり、抜本的な解決が必要だと思うがいかがか。

市長 平日昼間における一次救急医療事業については、正午から午後2時までの時間帯に内科系及び外科系の2医療機関の輪番体制を構築し、本年1月から救急患者の受入れを実施している。本年2月の実績及び3月の予定では、市医師会所属の5病院及び9診療所の協力を得て、全ての平日昼

間に輪番体制を組むことができ、新年度についても、参加医療機関からの意見にきちんと耳を傾けながら、平日昼間における輪番体制を維持し、事業を実施していきたいと考えている。

また、救急医療の適正利用など様々な課題も含んでいる630問題については、市民の生命・健康に直結することから、抜本的な解決が必要であると認識している。しかしながら、現時点で別の方策を示すことができる状況にはないことから、まずは、本事業の導入前後における救急患者の発生時間帯、受診料、年齢構成などの項目を丁寧に分析し、630問題の改善にどの程度効果があったか検証した上で、今後の対応を検討していく。

